浄曲界の墓碑

豊竹古靱太夫

私は自分の趣味でもあり且又先賢追慕の意味から各所に散在せる浄瑠璃界先輩の墓所を永年に亘つて探り歿年やその業績を記錄してゐます。今度『大阪掃苔號』に求められるまゝホンの手控へに過ぎませんが、その中から拾ひ上げて左に一端を書き記すことにいたしました。多少とも世の御參考になりますれば幸甚です。

薫松山　一心寺墓地

竹本山城掾藤原兼房　京都の人、三世竹本綱太夫の門人、始め壽太夫と呼び天保十四年八月に二代目竹本津賀太夫を襲名す、其後追々出世して立者となり、嘉永六丑年九月京都に於て嵯峨御所より勅許あつて山城掾を受領し各地にて披露したが、後年國名を冠すること不相成とて御差留になつたので、竹本山四郎と改めた明治時代には各座に出勤してゐたが、明治十四辛巳年十月二十二日に歿す。行年八十二、戒名釋教壽　俗名山本壽三郎

二代目豐竹靱太夫　五代目駒太夫の門人にて初名司太夫後に師の前名富司太夫を襲名、更に明治二年八月御靈芝居に於て二代靱太夫名跡を襲名す。本性、行年不明。誠譽覺道禪定門（碑は明治十六年八月廿八日建立とあり）

二代豐竹此太夫　筑前少掾の門人なり、初名、初代八重太夫と云ふ通稱錢屋佐吉、寛延二己巳年三月始めて見習として出座、追々出世して寶暦元年十二月一ノ谷嫩軍記書卸しの興行に初代時太夫と改名して終に大立者となる。寶暦七丁丑年三月興行の時・師の前名此太夫二代目名跡を襲名して各地へ出勤の内時代は明和と改元、同二年江戸へ行き同三年まで逗留して評判よく、同年の秋に歸阪、北堀江市之側に芝居新築せられ此太夫座と云ふ。此座にてお染久松妹背門松質店の段を語りし時、大評判大入續きにて當祝として芝居の裏に衣裳及び大切なる品を入れし藏を建つ、これを世俗お染藏と稱せし由。寛政八年の夏歿す。行年七十一。釋淨清。

尙一心寺の墓碑は安永六十酉歳八月建之とあつて此太夫生存中に建てられたもので、この碑文に左記の銘がある。

翁姓水野名保道字佐吉淨清其法號也其先大阪堂島人少而學雜曲於筑前少掾藤子天賚逸夙臻其妙別稱此太夫嘗豐竹氏之嫡傳也余輩師事之也久矣今茲丁酉相議作壽藏於城南一心寺中翁干時五十有二歳老益壯

三代目豐竹時太夫　二代此太夫の門人にて大阪日本橋近くに住居、通稱錢屋源七と云ふ。又家名をぶせうの源七とも呼んだ。初名を豐竹人太夫と名乗り、寶暦十三年より師の門に入つて修行す世は明和と改元せられてより追々出世して師に隨ひ堀江此太夫座へ出勤し又他座へも出勤した、世は又安永と改元、同二年に二代時太夫死去に依て同年の十二月に三代目時太夫名跡襲名、夫より

各座へ出勤、同九年興行には稲荷街道墨染櫻四之切を勤め好評、同年又改元して天明と成るに及んで京又江戸へ赴き同七年まで逗留、同年歸阪して道頓堀若太夫芝居九月興行に出座して廓景色雪ノ茶會十册目ノ切を勤め好評を博した。其後寛政に至るまで引續き同座に出勤して同十年七月繪本太功記書卸しの時に七ッ目杉ノ森の段を語られし後、寛政十一未歳九月廿二日歿。行年不明。釋聲誓。

初代竹本大隅太夫　二代土佐事播磨大掾の門人、和州初瀬の產始め百合太夫、文化八年辛未年より師に隨ひ出勤、後文政七年師と共に江戸へ下り、薩摩座へ出勤の時、四代目三根太夫を襲名し同八年歸阪、七月より坐摩社内芝居へ出座して追々出世し、天保二年卯八月道頓堀若太夫芝居にて國性爺合戰の時、序切と樓門の段と切附物の萬戸將軍唐日記玉取の段を掛合にて勤む、天保九戊戌年二月興行に木下蔭狹間合戰七ッ目竹中砦の中と十册目切奥御殿とを勤めし際三根太夫を初代竹本大隅太夫と改名、追々大立者と成つて各段を語るうち國名を用ふる事不相成とあつて大隅を大住と文字を替へて各座へ出勤し又地方巡業にも出た。元治元甲子年十一月十三日歿す。行年六十八。通稱尾張屋新兵衞、幼名平吉と云ふ。大隅軒至道曉雲禪士。此石碑は一心寺御茶所横北側墓地にあり

四天王寺（西門納骨堂裏手墓地）

元祖竹本義太夫　竹本筑後掾藤原博教、俗名天王寺村五郎兵衞正德四年甲午九月十日歿、行年六十四。戒名釋道喜（本寺は四天王寺南門超願寺にも墓碑二基有）

初代豐竹若太夫　豐竹越前小掾藤原重泰、俗名河内屋勘右衞門明和元年甲申九月十三日歿、行年八十四。一音院眞覺隆信日重居士

本寺は高津中寺町本經寺、同墓地に墓碑あり、同寺の鐘樓堂は同師の一建立にて鐘に藝名が彫附けあり、又同境内には豐竹櫻と稱せし名木もあつたが今は枯れて建石のみ殘る。

二代竹本義太夫　初代政太夫事二代義太夫を相續、後に竹本上總少掾を受領、又再び敕許あつて、竹本播磨少掾藤原喜教と名乘る。俗名中紅屋長四郎。延享元年甲子七月廿五日歿。行年五十四。不聞院乾外孤雲居士。

本寺は六萬體即天瑞寺墓地内にあり、又四天王寺の墓碑と並びて同師の床用腹帶を埋めて門人二世政太夫が建てし曲帶塚あり。

釋淨意　初代竹澤彌七。寶曆四年甲戌六月十七日歿。

會乾相說禪定門　初代竹本春太夫、俗名粉屋與兵衞、天明四年甲辰三月十九日歿。

釋敎春　二代竹本春太夫、通稱炭屋と云ふ、寛政二年四月廿九日歿。

法音院宗普日聞信士　初代此太夫事豐竹筑前少掾藤原爲政、俗名岸本屋善兵衞、行年六十九、明和五年十一月五日歿。

此處にある寶塔は師生前に門人達によつて建立せられしもので別に高津中寺町西北角正法寺に妙法法音院宗普日聞爲政と彫附けし一基有り、又天滿西寺町日蓮宗本傳寺にも法名彫附けし一基有り。

初代鶴澤清七　三絃符章之創始者、通稱松屋と呼んだ。法名德

譽教清禪定門、文政九年丙戌七月二十二日歿、この碑は壹百年忌修行の塚で、死去の頃は三代目鶴澤友治郎が名跡を襲名してゐて行年七十以上であつたと傳へてゐる。

四天王寺々內（元三大師堂附近墓地）

釋永淨　初代鶴澤燕三、通稱山形屋と云ふ、俗名網干利右衞門後に燕翁と稱す、明治二年頃死去、月日行年不詳。

釋古圓　初代豐竹古靱太夫、俗名木村彌七、明治十一年二月廿四日歿、行年五十二。

長秀院仁融義傳禪定門　三代目竹本長門太夫、通稱若松屋傳治郎、元治元年甲子十月十九日歿、行年六十五、同師の本寺天王寺南大道一丁目松井寺にも自筆の法名石碑一基あり。

音譽響流禪定門　五代目豐竹湊太夫、通稱竹屋と呼ぶ、明治十丁丑年六月二十五日歿、行年七十八。

釋清巖　初代鶴澤清六、通稱萬屋と呼ぶ　明治十一年五月廿三日歿、行年六十五。

二代目鶴澤高麗造　此人初代清六の門人也、死去年月日不明。

釋雅亮　六代目竹本彌太夫、俗名竹內龜松、行年五十九、大正十三年六月六日歿。

善譽陽音禪定門　碑面に淺野家とあるは四代目竹本雛太夫の墓俗名淺野善五郎。

淨智院釋良源　碑面に尾崎家とあるは七代目竹本源太夫の墓、俗名尾崎舛一郎、行年五十四、本寺は住吉區北田邊町圓融寺。

三代目竹本南部太夫　俗名前田卯之松、誠直院得譽無我南部居士、大正十一年四月二十四日歿、行年五十八。

五代目竹本住太夫　俗名吉野卯之助、明治四十二年九月二十二日歿、行年六十三、釋菁現。

七世竹本綱太夫　（二代目津太夫）俗名櫻井源助、通稱法善寺と呼んだ、明治四十五年七月二十三日歿、行年七十四。雲龍軒響譽津海居士、本寺の京都市大宮綾小路法善寺に碑あり。

五世竹澤權右衞門　（四代目才治）俗名鶴澤重助、通稱浮世小路と呼んだ。大正十五年四月十三日歿、行年八十八。

三代目竹本越路太夫　俗名貴田恒二郎、大正十三年三月十八日歿、行年六十、瑞光院寶譽越岸可雪居士。

初代豐竹呂太夫　通稱はら〳〵と呼んだ。俗名上西吉兵衞、明治四十年三月三十日歿、行年六十四、釋慧聲、本寺は市內北區富田町常圓寺。

六代目竹本組太夫　俗名片岡藤七、明治三十八年七月二十五日歿、行年五十九、東京にて死去、本所兩國回向院墓地に一基あり

五代目豐澤廣助　通稱松葉家、俗名栗原豐助、明治三十七年二月十八日歿、行年七十四、豐壽院德譽日廣信士、本寺の高津中寺町正法寺に一基あり。

其他同地內には初代、二代、三代の吉田金四の立派なる碑あり、又彥六座々主寺井氏の碑（俗名寺井安治郎）元祖竹澤權右衞門の碑、竹本聽津大掾の銅像なども建つてゐる。

○其他千日前法喜寺、下寺町遊行寺には無數の墓所あれど今回はこれに止め追々に記すことにします。